社会福祉法人
恩賜財団 東京都同胞援護会
TOKYOTO・DOHO・ENGOKAI

同援だより

2023年
盛夏号（196号）

「コロナ禍でも楽しく、園内ぶどう狩り」小茂根福祉園

● 主な内容 ●

2023 事業計画
2022 事業報告
海外研修に参加して
施設通信

少子化対策

理事長　飯山 幸雄

6月3日の朝日新聞一面に「出生 最少77万人　昨年 出生率も最低1.26」との見出しで、「2022年に生まれた日本人のこども（出生数）は77万747人で、統計を始めた1899年以降で最少となり、初めて80万人台を割り込んだ。」との記事が載りました。

昨年の出生数が80万人を割り込むことは昨年のうちから見通され、岸田首相は1月4日の年頭の記者会見で「異次元の少子化対策に挑戦」「子育て支援強化に全力で取り組む」と述べ、少子化対策を政策の目玉とすることを表明しました。その後、4月に「こども基本法（昨年6月成立）」の施行とともに「こどもまんなか」をスローガンに「こども家庭庁」が発足し、「こども政策を総合的に推進するため、政府全体のこども施策の基本的な方針を定める『こども大綱』を策定する」（年内をめど）こととなっています。

「異次元の少子化対策」については、全世代型社会保障構築本部の下で、内閣総理大臣を議長とする「こども未来戦略会議」が4月7日に設置され、本稿記述の6月9日時点までに5回の会議が行われています。6月1日の第5回会議で「こども未来戦略方針案」が公表されましたが、その案では、3つの基本理念―①若い世代の所得を増やす②社会全体の構造・意識を変える③全てのこども・子育て世帯を切れ目なく支援する―が掲げられ、加速化プランとして児童手当の拡充、出産等の経済的負担の軽減、医療費や高等教育の負担軽減、幼児教育・保育の質の向上～75年振りの配置基準改善と更なる処遇改善～、全ての子育て家庭を対象とした保育の拡充～「こども誰でも通園制度（仮称）」の創設～、多様な支援ニーズへの対応等々が具体的な施策として示され、来年度から3か年間の集中期間に実施する加速化プランの予算規模については、3兆5千億円規模となりました。しかし、その財源については社会保険料に上乗せする「支援金制度案」、既定予算の活用や社会保障の歳出削減などが議論されていますが、具体的な内容については年末の予算編成過程まで持ち越される模様となっているようです。

さて、少子化対策のメニューがそろい実現のための制度・施策が実現したとして、3年で効果が出るでしょうか。問題は先述の理念の中の「②社会全体の構造・意識を変える」ことができるかどうかにあると考えられます。こどもを育てることが楽しい、育ったこども達が作っていく社会が明るく希望に満ちたものになることが見通せるようでなければ、少子化は止まらないのではないでしょうか。

退任挨拶

前常務理事　中島（なかじま）　昭（あきら）

6月30日開催の評議員会で、常務理事を退任いたしました。2010年4月1日にニューフジホーム園長として同援に採用され、2012年4月に総務部長、2016年5月30日からは常務理事として都合13年3か月お世話になりました。振り返ればあっという間に過ぎてしまったという感がありますが、飯山理事長をはじめ、多くの役職員の皆様に支えていただき退任を迎えることができました。ありがとうございました。

65歳で去っていく仲間たちに申し訳ないと思いながら、73歳までも充実した仕事をさせていただきました。もっとも、最近では決裁時に早とちりが目立ちご迷惑をおかけしており、役に立っているのは、毎朝の本部の鍵開けだけのようになっていますが。

いくつかの思い出話で、ご挨拶とさせていただきます。

確か2009年の12月頃だったと思いますが、青梅にあった私の勤務先に菅原前常務が突然やってこられて、同援での仕事を勧められました。その頃は再任用がほぼ決まっていたのですが、なぜか再任用を断り、同援に来てしまいました。最近聞いたのですが、妻は続くのかなと不安だったようです。縁というのは不思議なものだと思います。

2010年3月に昭島病院で採用時健康診断を受け、その足でニューフジホームへ行きました。玄関の前に来て、ちょっと「複雑な思い」になったことを鮮明に覚えています。でも、ニューフジホームでの2年間が一番印象に残っています。特に強烈だったのが、東日本大震災です。2011年3月10日午後、職員会議で、1年経ったのでちょっとかっこいいことを言おうと思って準備していたのですが、大震災の揺れに襲われ、そのまま自家発電で明るい昭島病院を眺めながら、計画停電の嵐の中に放り込まれてしまいましたから。

常務になって一番の思い出は「決断」です。なりたての頃に、低金利対策として社債の一種である劣後債の購入に踏み切った時です。信用組合の管理監督の仕事をした経験から、劣後債のリスクは知っていましたので、さんざん悩みました。しかし、法人の資産を有効に活用するためにはやむを得ないと決断しました。その後、劣後債は大きな問題はなく運用されていますが、クレディスイスの破綻時には、改めて責任の重さを感じました。もっとも、「決断」は、その後はなかったような気もしますが。

さて同援は、利用者に寄り添った支援ができる素晴らしい職員がそろっていると実感しています。これは、今まで諸先輩が培ってきた風土の賜物だと思います。なぜかといえば、私の娘が一昨年の8月からグループホームで支援を受けていますので、職員の方々の有難さやご苦労は、改めて実感として感じているからです。

今後、法人を取り巻く環境は刻々と変化し、いろいろな困難があろうかと思います。しかし、職員の皆さんなら必ず打開していけると信じています。

前の職場で退職辞令をもらった翌日からニューフジホームに出勤し、ゆっくり休むこともありませんでした。これからも、老夫婦がタッグを組んで障害者支援に取り組んでいかなければなりませんが、少しは自由な時間を楽しみたいと思っています。長い間ありがとうございました。

前理事　菅原（すがわら）　眞廣（まさひろ）

平成29年6月から6年間理事を務めさせていただきました。後半の3年間は、新型コロナ感染症の蔓延によって、理事会出席もオンライン参加を余儀なくされました。そのため、理事の皆様や、職員の皆様との対面での議論ができず、大変残念な思いをしておりました。

この間、コロナ禍の法人運営にあたって、職員の皆様は大変なご苦労をなさったことでしょう。やっとコロナも収まり、法人の運営も日常に戻りつつあると思います。これからもう一段ギアを上げて福祉事業に邁進していただきたいと願います。

さて、平成18年に当時の牧野理事長から声をかけられ、当法人に勤務することになってから17年余りが経ちました。様々な思いが去来しますが、多々ある社会福祉法人の中で、日本を代表する法人の東京都同胞援護会の運営に携わることができたのが一番の誇りです。

7年前に常務理事を退任し、同援の資料室を作るべく、戦前戦後からの同援の歴史資料を調べたことによって、あらためて当法人の歴史の重みや先輩方の努力の跡を認識することができました。これからも日本の社会福祉の歴史に、当法人の足跡を残していっていただけたらと思います。

人口減少が現実のものとなっている現在、福祉事業にとって「人材確保」が最大の課題だと思います。私も後期高齢者になり、近い将来の介護ニーズは必然だと思っています。社会福祉に携わる皆さんが知恵を絞って、福祉人材の確保に努めていただきたいと思います。当法人もこの課題に応え、多くの優秀な人材を確保できるよう願っております。

最後になりますが、東京都同胞援護会のますますのご発展と職員の皆様のご活躍をお祈りいたします。長い間本当にありがとうございました。

昭島荘
前施設長　鎌田（かまた） 弘道（ひろみち）

「あれから 40 年間、そしてこれから何年？」

知的障害者通所施設・高齢者デイサービス・特別養護老人ホーム・母子生活支援施設・救護施設と約 40 年間、一般職員から管理職に渡り東京都同胞援護会でお世話になりましたが、入職当時はここまで長く働き、ましてや管理職になるとは、想像もしておらず予想外の人生を送ってきたと思っています。

「福祉業界の常識は一般社会の非常識」「一般社会の常識は福祉業界の非常識」と相反する思いの中、利用者・職員・関係機関など、様々な価値を有する皆様との出会いを通して、人としての在り方を学びました。

最初と最後の施設は障害者関係ですが、昭島荘の誕生会の際、「いつでも元気で長生きしてください」と、言葉をかけた利用者の方が「人生で一番嬉しかった」と感謝のお手紙をいただき、また退職の際にも、ねぎらいのお手紙をいただいたことは、今でもとてもありがたく感激しています。

皆様と出会えた感謝と新しい出会いを求め、残された人生を有意義に過ごしていきたいと思います。

就任挨拶

立川福祉作業所
施設長　本間（ほんま） 仁（まさし）

4 月より立川福祉作業所の所長に着任しました。

就任のお話を頂いた時は、果たして私に務まるかという不安と、これまでとは違う立場で施設運営に携わることへの重責に身が引き締まる思いでした。

さて私は、平成 11 年にさやま園に入職しました。平成 29 年より東村山生活実習所での勤務を経て、当施設の着任に至ります。

入職してからこの間、大きく制度が変わり、福祉を取り巻く環境や福祉観が大きく変化しました。しかし、いつの時代でも利用者の方の最善の利益を追求することに変わりはなく、また我々職員の責務であると考えています。施設運営にあたっては、利用者一人ひとりの思いに寄り添い、それを職員と一緒に考えることを大事にしたいと考えます。当施設を利用して良かったと思っていただけるよう、より良い施設サービスを提供して参りたいと考えています。

そのためには、まず職員が元気に笑顔であることが大事であると考えます。また仕事に誇りとやりがいを感じることも必要不可欠です。

施設運営にあたっては、職員を大切に、また働きやすい職場づくりに取り組んでまいる所存です。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

昭和郷高齢者複合施設
施設長　坂庭（さかにわ） 弘行（ひろゆき）

令和５年４月１日より、昭和郷高齢者複合施設所長に就任いたしました。

私は、平成９年に総合調理場に入職し、その後ニューフジホーム、ひかり苑を経て、当施設に就任しました。

入所施設から初めて在宅サービス施設への異動ですので、不安や戸惑うことばかりではありますが、まわりの職員に助けてもらいながら、なんとかゆっくりではありますが前に進んでいます。

在宅介護では、核家族化が進んだことにより、以前は家族複数人で負担を分けていた介護が一人にのしかかり介護離職や老々介護などの様々な問題が生まれ、地域から必要とされるサービスも多様化しています。

要介護状態となっても、人生最期まで住み慣れた地域で必要な介護サービスを受け、365 日 24 時間安心して自分らしい暮らしができるような施設を、職員と共に目指してまいります。

それには、地域住民へのサービスの普及活動と在宅介護を担う人材の育成（介護職員の資質の向上と定着促進、魅力ある職場づくり）が不可欠であり、継続して進めてまいりたいと思います。

ご利用者が笑って過ごせるよう、職員が笑って働けるよう、私の使命として取り組んでいく所存です。

今後ともご指導よろしくお願いいたします。

2022 年度　第 47 回資生堂児童福祉海外研修報告

オーストラリア（ニューサウスウェールズ州シドニー）研修に参加して

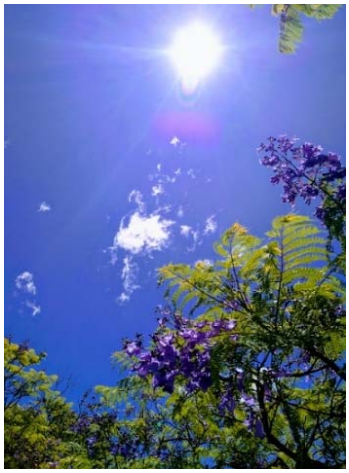
サンライズ万世 心理療法担当職員　杉山（すぎやま） 亜佳音（あかね）

はじめに

昨年度、資生堂子ども財団が主催する『資生堂児童福祉海外研修』の団員として、オーストラリアのニューサウスウェールズ州を訪問し、現地の児童福祉事情を視察し学ぶという機会を得ました。折しも、こども家庭庁の発足を翌年に控えたタイミング、またコロナ禍の影響が依然残る中での海外研修であり、渡航前後も様々な準備や心配事に見舞われましたが、幸いなことに無事すべての行程を終えることができました。渡航期間は 11 月 19 日から 26 日、研修団メンバーは団長および特別講師を含め計 10 名でした。

現地では、児童保護を管轄する行政機関をはじめとして、子どもや家庭を支援するため各々に特色ある活動を第一線で行なっている機関 11 か所を視察訪問しました。それぞれの歩んできた歴史やそれによって獲得してきた強み、また活動内容などを、当地のスタッフから直接聞くことができ、どの機関も非常に興味深く拝見しました。オーストラリアにおける児童福祉分野の歴史を踏まえつつ、児童保護施策として里親委託を中心に据えるに至った経緯、それにより生じている現在の課題、そしてそれらを改善したり予防したりするための手法としてどのような取り組みがなされているのか、そうしたことを網羅的に学ぶことができました。

加えて、当事者を中心とした支援体系の構築を目指す『サインズ・オブ・セーフティ』開発者によるオンライン講話、さらには事前・事後研修や研修報告書の執筆、こども家庭庁の方に向けての研修報告会の実施も含めて、大変に鍛えられる経験となりました。すべての視察先について詳しくご紹介することは紙面の都合上難しいため、仔細は資生堂子ども財団の公式ホームページに掲載されている研修報告書（※末尾に URL 記載）をご覧ください。ここでは、研修参加を通して私が印象的に感じたことの中から、二点ほどご紹介したく思います。



街のあちこちに咲いていたジャカランダの花

多様性を尊重する姿勢と努力

まず一点目は、多様性に開かれていること、様々な『当たり前』が存在していることを大切に考えていることです。オーストラリアは、例えば人種や言葉、宗教といった要素だけを挙げても、日本に比べて実に多様な人々が暮らす国であり、多くの価値観がひしめいています。そのような場所において、集団としてある程度のまとまりをつけながら共存していくためには、違いを認めながら相手のあり方を尊重することが、平和的に生きるために必要とされます。そのような価値観は、オーストラリアの歴史的経緯（イギリスからの児童移民施策や先住民迫害、また施設における児童性虐待問題といった権利侵害）に内包される激しい痛みを通して学び得たものでもありました。現在のオーストラリ

先住民への謝罪表明

アボリジナルアート体験

子どもの心理治療で使う遊具の一部

アでは、書店の一角に多様な家族のあり方への理解を自然と育むような絵本が置かれたコーナーがあったり、児童福祉分野のサービスは人々の多様性を前提として構成され非常にバリエーションに富んだ展開となっていたりします。多様性を貴ぶという価値観が社会の人々、また社会システムのあり方に浸透していると感じられ、しかもそれらは最新の専門的知見などを織り込みながら絶えず進化を続けているものでもありました。多様性の尊重を実際に体現していくプロセスの難しさについては、多くの方が頷かれるところかと思います。オーストラリアにおいても、今もなお分断に苦しみ、怒り悲しんでいる人達がいることも事実です。しかし視察先で出会った方々は、諦めずに対話を続けることで、無限の『当たり前』を認め尊重しようとしていました。その努力を目の当たりにし、強く心を動かされました。また、福祉サービスに対して明確かつ厳格な評価基準とチェック体制が設けられていることや、当事者の声の吸い上げが法律によって制度化されていることも、多様性の尊重と同じく、人権尊重を実現するために重要な要素であるということも、改めて学びました。

アイデンティティの根幹を支える帰属意識・所属意識

二点目は、帰属意識や所属意識というものが人間のアイデンティティ形成にとっていかに大切なものであるか、ということです。ある視察先で、自らの家族やコミュニティ、土地から離れて長年生きることを余儀なくされている先住民の長老の語りを聴かせていただくことが出来ました。離れて暮らす家族への思いを語る声色や表情、迫力に、通訳の方の言葉を聞くより先に熱いものが胸にこみ上げ、たまらない気持ちになりました。人が自分の存在を肯定しながら生きていくためには、自分が帰属感を持てる安全な場があること、居場所とも言い換えられるかもしれませんが、そういった対象がなければなりません。それを奪われることへの悲しみや苦しみを、痛切に感じた体験でした。またオーストラリアで家庭外ケアを受けている子ども達は、様々な事情から支援者や支援場所が転々としがちで、それにより自らのアイデンティティ形成が困難になるという同様の課題が、現在も存在しています。そうした子ども達に対して、自分の人生には繋がりや一貫性があるのだと体験してもらえるような支援が、積極的に行われるようになっていました。

おわりに

今回の研修は海外の児童福祉事情について学ぶという趣旨でしたが、同時に、対人支援一般に必要とされる普遍的な価値観に改めて触れる経験ともなりました。そして団員の皆様や先生方、資生堂子ども財団の方々との出会いもまた、私にとって大変幸せなことでした。一連の体験から得られたことを糧に、これまでの仕事を改めて内省しながら、これからの支援のあり方を探求し続けていきたいと思います。最後に、いつも苦楽を共にしているサンライズ万世の職員の皆様、また法人職員の皆様へ、研修へ快く送り出していただいたことに心から感謝を申し上げます。

・公益財団法人資生堂子ども財団　第 47 回（2022 年度）資生堂児童福祉海外研修報告書
https://www.shiseido-zaidan.or.jp/data/media/posts/202304/ 第 47 回資生堂児童福祉海外研修報告書 N- 圧縮 .pdf

保育所内の見学

施設通信

輝ける未来に向けて

大山保育園

主任保育士　有馬（ありま）　麻耶（まや）

すくすく　げんきに　おおきくな～れ

毎年３月にハッピーロード大山商店街から５ｍ位の白い無地の製作用こいのぼりが配布されます。今年は、子ども達の手形をうろこに見立てて「オリジナルこいのぼり」を完成させました。ハッピーロードのアーケードには、周囲の保育園のこいのぼりが沢山泳いでいて、大山保育園のこいのぼりは大山駅のすぐ近くに飾られ、温かい表情で通る人に「いってらっしゃい」「おかえりなさい」と言っているかのようでした。

「端午の節句」に因んで５月２日に菖蒲を入れた足湯を保育園の玄関ポーチに開店しました。０.１.２歳児は、おそるおそる足をタライにつけている子もいましたが、ぬるま湯だと感じると気持ち良さそうにしていました。また、３.４.５歳児は、散歩から帰ってきて準備されている足湯を見つけるとワクワクした表情で「これ何の葉っぱ？サラダ？」「いいにおいがする」と言って興味を示していました。菖蒲の花を見せながら葉の名前を知らせて、健やかな成長を祈願する意味を伝えたり、「頭に巻いたら頭が良くなると言われているよ」「足に巻いたら足が速くなるかな」と葉を体に当てながらおまじないをして嬉しそうに友達と足を並べて浸かっていました。そして、５歳児（ゆり組）の女児たちが「今度はゆりのお花で足湯したいな」と自分のクラスの花の名前を上げて想像を膨らましているのも面白かったです。次の日は、保護者の方から「なかなか家ではできない体験をありがとうございました。」と言葉を頂きました。

これからも、四季を感じさせる日本古来の年中行事を大切にし、由来や意味を一つひとつ分かりやすく伝える役割が保育園であることを改めて実感しました。また、実体験を通して心を動かしたり子どもの発想を大切にしながら、子どもも大人も一緒に楽しめるような保育園を目指していきます。

昭島荘

主任生活指導員　村山（むらやま）　公児（こうじ）

シン・昭島荘

新施設長、新副施設長、新介護主任の新体制となり、「楽しい施設」をモットーとし、新年度がスタートしました。利用者からの強い希望もあり､6月７日に久しぶりの行事として園庭で｢縁日」を実施、コロナウイルス感染症対策を徹底した中での開催でした。３年ぶりの行事という事もあり、約９割の利用者が参加しました。盆踊りの曲を BGM にヨーヨー釣り、金魚すくい、スーパーボール、魚釣り、ボウリング。利用者の一番のお楽しみはプリンを食べることだったようです。久しぶりの行事に皆さんとても楽し

んでいました。職員も久しぶりの行事に準備から張り切っていました。

今年度、昭島荘は「利用者、職員に優しい施設」を目指しております。利用者や職員からのアイディアで、きゅうりや枝豆や花等の園芸活動が始まりました。収穫前に利用者や職員がつまみ食いをしないように観察もしています（笑）。

このように、昭島荘は日々変化しております。小さな変化の積み重ねが大きな変化になると思っています。ホームページをリニューアルし、様々な出来事を発信していきます。職員が One team となって利用者が笑顔になり、職員がやりがいを持てる施設になるよう取り組んでいきます。

小茂根福祉園

生活支援員　馬場（ばば）　葵（あおい）

TURN の紹介と現在の活動～風の通り道～

「TURN」とは、障害の有無、世代、性、国籍、住環境などの背景や習慣の違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を、表現として生み出すアートプロジェクト（東京都の文化事業）の総称です。小茂根福祉園は、2015 年の初年度より交流プログラムに参加し､2017 年からは「TURN LAND」として園が主体となり参加しています。

さて、今回の活動は「風の通り道」です。初めてのアーティストを数人迎え、利用者さんとの新しい出会いが繰り広げられています。カラフルな紙、硬い紙など様々な素材を使い、組み立てた木材に自由に付けます。こうして各々が居心地のいい空間を作っていくのです。黙々と紙を裂く利用者さん、その横で一緒に紙を裂くアーティスト。言葉はなくとも、紙の裂く感覚や音を一緒に体験しながら、自然と打ち解けていきました。それが利用者さんにとって居心地の良い空間へと変わり、いつの間にか満面の笑みに。別の利用者さんは、アーティストとの言葉遊びに飛び跳ねて喜んでいました。居場所作りが完成したら各々その場で過ごします。座って音楽を聴く人、寝転ぶ人、好きな本を読む人…過ごし方は十人十色でした。

後日、この居場所作りの様子を舞台にして、ゲストパフォーマーが上演しました。自分たちの作った空間や時間と、実際の劇が重なる不思議な感覚だったと思います。劇中の登場人物や物、空間から利用者のみなさんはそれぞれが心地のいいものを見つけていたのではないでしょうか。

TURN による様々な人との出会いや表現が、社会との繋がりを広げるきっかけとなっています。そして何より、TURN は利用者の皆さんの笑顔溢れる活動です。「次はいつ？」と楽しみに待つ利用者さんが多くいらっしゃいます。支援側にとっても「え？こんな一面があるの？」と利用者さんの新たな面に気づき、支援のヒントとなることがあります。

今後も大切な活動として、施設全体で取り組んでいきたいです。

板橋区立小茂根福祉園「風の通り道」、TURN LAND プログラム　2022 年
撮影：小野悠介、梅田彩華

２０２３　東京都同胞援護会　事業計画

我が国の令和５年度政府社会保障関係予算は、対前年度比 1.7%増（6,154 億円増）の 36 兆 8,889 億円となり、一般会計歳出額 114 兆 3,812 億円の 32.3%を占めています。岸田首相は、昨年の出生数が 80 万人を割り込む見通しの中、「異次元の少子化対策に挑戦する」としており、当面この４月に発足する「子ども家庭庁」に４兆 8,104 億円を措置しています。一方で、東京都の福祉・保健分野の歳出予算は、０１８サポート（18 歳以下に月 5,000 円給付）や第二子の保育料無償化の開始、出産・子育て応援事業の拡大などにより、コロナ対策経費を除くと対前年度比 14.5%増（1,949 億円増）の１兆 3,435 億円となり歳出予算全体の 24.5% を占めています。

物価高騰を見据えた予算編成

本会としては上記の情勢を踏まえ、中長期計画に添って魅力ある未来をつくるための「持続的成長」を目指した経営を行うとともに、地域に根差した事業の着実な継続や社会貢献活動に取り組んでまいります。事業実施にあたりましては、引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努め、利用者の安全・安心を確保するとともに、物価高騰を見据えた予算編成をおこない利用者の立場に立った質の高いサービスを提供いたします。また、安定した財務基盤の強化、サービスの担い手である人材の確保と育成を重点目標にいたします。

保育支援系グループが目指す保育

まず子ども関連ですが、保育事業については５か所の区市に展開する 10 園の保育園が、地域社会の子育ての拠点となり育児困難家庭に対する積極的な支援に取り組むことをはじめ、障がい児や医療的ケア児の受入れなど、各地域の多様なニーズに応える保育サービスを提供してまいります。保育支援系グループが目指す「子どもの持っている自ら育つ力を引き出し、伸ばす保育」「子ども一人一人の気持ちに寄り添った応答的保育」「子どもの興味関心に合わせ、様々な実体験を通した心を動かす保育」を実践してまいります。

児童女性支援系グループが目指す事業

また、児童女性支援系グループにおいては、施設養護もできる限り家庭的な養育環境の形態に近づけるという時代の流れに沿って、児童養護施設双葉園における小規模化及び家庭的養護の推進を実現していくために、新規グループホーム開設に着手します。一方、女性自立支援施設いこいの家では、令和６年４月１日施行の困難な問題を抱える女性への支援に関する法律に的確に対応できるよう事業展開を図ってまいります。

財務基盤の強化

次に、財務基盤の強化については、電気・ガス料金の高騰と物価高に対し、業務委託の見直しなど具体的な経費の削減に努めるとともに、本会を支える収益事業についても事業局による新規顧客の開拓をはじめ、不動産賃貸事業の適正な管理や確実な資産運用に努め、財務基盤の長期安定を図ってまいります。

福祉人材の育成と職場環境の整備

福祉人材の育成と職場環境の整備については、高齢社会に対応した働き方改革を実現するため、令和１０年４月より定年を６５歳とする「定年年齢引き上げ移行に関する取扱規程」を制定するとともに、現行の再雇用職員の待遇を段階的に引き上げて「同一労働同一賃金」を目指します。また職員が職場内で互いに一人ひとりの人格を尊重し合うことで、「心理的安全性」が高く職員自らが成長できる職場となるように、管理職に対しても職場環境の改善及び適切な組織マネジメントを行うための継続的な研修を実施してまいります。

昭島病院

昭島病院については、MRI を始めとした医療機器を更新し医療サービスの向上に努めます。地域の医療需要の変化への対応として、地域包括ケア病床増床のための病棟の再編をはじめ、本格的な地域への訪問診療の開始や 365 日リハビリテーション体制の構築に取り組んでまいります。更にはオンライン診療の実施についても検討するなど地域医療の中核的な役割を果たしてまいります。

一方、築後 40 年以上が経過し老朽化した養護老人ホーム万世敬老園は、措置入所者の減少がとまらず建替えのための財源確保も困難なため、事業継続が難しくなっており、今後は抜本的な対応を行う必要があります。このような厳しい現状の中にあっても本年度も役職員一丸となり、利用者の皆様や地域の方々から信頼される法人であり続けるために精進してまいります。

決算報告書

貸借対照表　2023 年 3 月 31 日現在

（単位：千円）

資産の部		負債の部	
流動資産	4,906,471	流動負債	1,233,683
固定資産	17,032,110	固定負債	1,505,698
		負債合計	2,739,381
		純資産の部	
		基本金	983,754
		国庫補助金等特別積立金	4,047,999
		その他の積立金	6,161,477
		次期繰越活動収支差額	8,005,970
		純資産合計	19,199,200
資産合計	21,938,581	負債・純資産合計	21,938,581

事業活動計算書　（自）2022 年 4 月 1 日（至）2023 年 3 月 31 日

（単位：千円）

サービス活動増減の部	
サービス活動収益計 (1)	12,728,900
サービス活動費用計 (2)	12,235,497
サービス活動増減差額 (3) ＝ (1) － (2)	493,403
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計 (4)	98,728
サービス活動外費用計 (5)	22,324
サービス活動外増減差額 (6) ＝ (4) － (5)	76,404
経常増減差額 (7) ＝ (3) ＋ (6)	569,807
特別増減の部	
特別収益計 (8)	27,673
特別費用計 (9)	29,013
特別増減差額 (10) ＝ (8) － (9)	△ 1,340
税引前当期活動増減差額 (11) ＝ (7) ＋ (10)	568,467
法人税、住民税及び事業税（12）	10,525
当期活動増減差額 (13) ＝ (11) － (12)	557,942
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額 (14)	7,811,278
当期末繰越活動増減差額 (15) ＝ (13) ＋ (14)	8,369,220
基本金取崩額 (16)	0
その他の積立金取崩額 (17)	11,750
その他の積立金積立額 (18)	375,000
次期繰越活動増減差額 (19) ＝ (15) ＋ (16) ＋ (17) － (18)	8,005,970

資金収支計算書　（自）2022 年 4 月 1 日（至）2023 年 3 月 31 日

（単位：千円）

事業活動による収支	
事業活動収入計 (1)	12,829,335
事業活動支出計 (2)	11,758,329
事業活動資金収支差額 (3) ＝ (1) － (2)	1,071,006
施設整備等による収支	
施設整備等収入計 (4)	26,864
施設整備等支出計 (5)	316,661
施設整備等資金収支差額 (6) ＝ (4) － (5)	△ 289,797
その他の活動による収支	
その他の活動収入計 (7)	17,162
その他の活動支出計 (8)	412,874
その他の活動資金収支差額 (9) ＝ (7) － (8)	△ 395,712
当期資金収支差額合計 (10) ＝ (3) ＋ (6) ＋ (9)	385,497
前期末支払資金残高 (11)	3,618,120
当期末支払資金残高 (10) ＋ (11)	4,003,617

２０２２　東京都同胞援護会　事業報告

2022 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策に追われた年となりました。一方で、ロシアのウクライナ侵攻により、エネルギーや原材料の輸入価格高騰に拍車が掛かり、食料などの生活必需品も値上げラッシュが続きました。物価高の影響緩和のため、政府はガソリン価格の抑制や輸入小麦の価格据え置き、電気・都市ガス料金の負担軽減策など物価高対策を講じてきました。2022 年度も社会情勢の変化に備えつつ、本会を取り巻く環境変化を見極めながら中長期計画に添って「持続的成長」を目指した経営を行ってまいりました。

新たな社会福祉事業への取組み

本会は、これまで地域に根差した事業を着実に継続してまいりましたが、昨年度から新規事業として取組みを始めた杉並区久我山１丁目の「都有地活用による地域の福祉インフラ整備事業」について、運営事業者として施設整備事業計画（グループホーム併設の知的障害者通所施設）を作成し、令和７年４月開所に向けて区内関係施設並びに保護者向け説明会を実施いたしました。また、杉並区の「すべての家庭が希望する認可保育園に入園できる環境を整えていく」という地域ニーズに応えるため、杉並区井草５丁目に本会にとって 10 か所目の認可保育所となる「同援いぐさ保育園」をスタートさせました。

「同援いぐさ保育園」（外観）

昭島病院をはじめ多くの事業所の収支は良好に推移

財務状況につきましては、電気ガス料金の上昇や物価の高騰、養護老人ホームの措置入居者の減少、新型コロナウイルス感染症の影響による介護保険施設の稼働状況が低迷するなどのマイナス要因もありましたが、物価高騰に対する補助金などのプラス要因や予算管理の徹底した取組みにより、昭島病院をはじめ多くの事業所の収支は良好に推移しました。その他、集合住宅賃貸事業をはじめとした不動産賃貸事業や印刷事業などの収益事業は安定的に収益を確保し、本会の財務基盤の下支えとなりました。令和４年度の事業活動増減差額は５億 5794 万円を計上することができましたが、昭島病院の高度医療機器の入替計画をはじめ、老朽化した建物を整備し、今後も福祉ニーズに応え続けていくために、引き続き財務基盤の強化に努めてまいります。

クラスター発生時の職員確保のための応援派遣体制を構築

次に施設運営につきましては、新型コロナウイルスが猛威を振るい、各所で事業所内クラスターが発生し、感染の広がりによる事業継続の難しさを痛感する一年となりました。検査キットや防護服などの衛生用品、介護用品や使い捨て食器などの生活必需品が不足している施設に対して、必要な物資を補給できるよう事業所間における協力体制を整えるとともに、クラスター発生時の職員確保のための応援派遣体制を構築するなど、法人職員が一丸となり、利用者支援サービスの事業継続に努めてまいりました。

昭島病院については、新型コロナウイルス感染症に対する院内感染防止対策を強化しながら積極的な紹介患者の受入れを行い、年間を通じた平均病床稼働率は 77.8％を維持し、コロナ禍の影響を最小限に止めることができました。

「昭島病院発熱外来」

地域への取組み

地域への取組みについては、昨年に引続き、活動そのものが限定的とはなりましたが、感染防止に努めながら、生活困窮家庭の子どもの学習支援や地域見守り配食などの社会貢献活動をおこなってまいりました。昭島病院においても、東京都や保健所の要請に対応し、近隣病院等からのコロナ陽性者、コロナ疑い患者、アフターコロナ患者の受け入れなどを積極的に行ってまいりました。

保育士 12 名を含む新規職員を 52 名採用

人材確保については、法人全体で新規採用職員 52 名、正規転換 10 名（計 62 名）を確保しました。また、採用活動に加え、全ての保育園において、業務負担軽減のためスマートフォン又はタブレット（いずれも園保有の公用機器）で入力できる記録システムの導入・運用を行ったほか、保育士を完全週休二日制とし、年間休日を 120 日以上とするなど、職員の働く環境の見直しも行いました。

「新任研修」（風景）

人材育成

人材育成については、各支援系グループで分野別専門研修を実施したほか、施設長等人事考課の実施者を対象とした施設マネジメントに関する研修を隔月で行い、「職員を大切にする」という理念のもと、心理的安全性が高く、職員が有する能力を高め合える組織づくりを目指しました。

「施設長等人事考課者研修」（風景）

定年年齢引き上げ

さらに、本会では、高齢者の雇用の安定を図るという社会情勢に対応するため、令和 10 年 4 月から定年年齢を 65 歳とすることとし、「定年年齢引き上げ移行に関する取扱規程」を制定するとともに、それまでの間再雇用職員と正規職員との待遇差を段階的に解消することとしました。急速な高齢化が進行している中で、本会としても事業運営の活力を維持していくために、働く意欲のある高齢者がその能力を十分に発揮できるよう、高年齢者が活躍できる環境整備を図っていくことが重要であると考えております。

施設の利用者ならびにご家族の皆様をはじめ、関係者、地域の皆様から様々なご支援を賜りましたことに心より御礼申し上げます。

役員・評議員

役　員（任期：令和７年６月 定時評議員会の終結時まで）	
理事長	飯山　幸雄
常務理事	横山　宏
理　事	品川　卓正　小林　一己　宮崎　牧子 西村　七重　雑賀　真　上原　淳 田代　秀之
監　事	鈴木　道生　根本　昌廣

評議員（任期：令和７年６月 定時評議員会の終結時まで）	
五十嵐力平	本山美八郎
川向　良和	堀　茂
岡橋　生幸	飯村　史恵
田中　康道	吉村　晴美
細谷　訓之	七島　晴仁

訃報

本会の元理事 多久島耕治氏が、去る令和５年６月１日にご逝去されました。

多久島耕治氏は、平成７年の就任から令和４年までの 25 年間という長きにわたり理事として本会の発展に尽くされました。

弁護士としてご活躍されるとともに、社会福祉法人都心会理事長を務めるかたわら、日本障害者リハビリテーション協会監事、東京都社会福祉事業団顧問、東京都国民健康保険団体連合会顧問など、数多くの公職を歴任され、大きな功績を残されました。

ここに、法令順守、利用者の個人の尊厳の確保と情報公開に取り組まれてこられた多久島耕治氏のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

ご支援ありがとうございました（敬称略順不同）

ご寄付

◇フィデリティ投信㈱◇㈱アビック◇石川恵利香◇田實孝子◇（公財）ＳＢＩ子ども希望財団◇（公財）生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会東京協会

後援会

◇横田つる代◇小淵勝◇長谷川文江◇松井淳一◇葛西優美◇髙仲智子◇細谷寛子◇林優子◇川井文子◇山内和子◇南山徳英◇大橋政照◇高宮智美◇志田原陽果◇日清医療食品㈱東京支店◇川口米店　川口順文◇唐沢電気㈱　代表取締役　小林利美◇㈱橋本工務店　橋本誠一◇中村屋魚店◇㈱豊明◇㈱金祥堂紙販売◇㈱ケイエス機材◇風間造園㈱　代表取締役　風間修一◇㈱木の里工房木薫◇㈱昭和造園◇㈱安江設計研究所　代表取締役　安江知之◇㈲ラッコクリーンサービス　代表取締役　佐々木憲寅◇㈲横手モータース◇㈱コスモス医工　代表取締役 小林寿男◇㈱八洋　羽村営業所◇ヘルシーフード㈱◇学校法人成城学校◇三峰電気㈱◇長崎三丁目町会　会長　足立憲昭◇昭島サンセルフ　髙野裕志◇㈲リハビリーサービス◇ヘアパルおかもと　岡本廣

資格取得のご紹介

次の方が資格取得しました。
日頃の業務に活かし、ご活躍を期待します。

■ 社会福祉士

東村山生活実習所
　生活支援員　佐野　洋介
さいわい福祉センター
　生活支援員　長島　侑吾

■ 保育士

さくらんぼ
　生活支援員　柴田　夏実

■ 介護福祉士

フジホーム
　介護職員　佐々木　元
昭和郷小規模多機能居宅介護センター
　介護職員　金泉佐多子
　介護職員　本間施都子
かえで
　介護職員　豊田　里美
ゆたか苑
　介護職員　藤波　翔太
　介護職員　上條　智貴
　介護職員　藤原　紀威
　介護職員　村上　聖子
サンホーム
　介護職員　児島　千栄
万世敬老園
　支援員　菅原　幸子
立川福祉作業所
　生活支援員　髙橋　晃平
さいわい福祉センター
　生活支援員　下山田彩菜

’24採用（新卒・キャリア採用）【保育士・介護職員・生活支援員・児童指導員、他】募集中です。

- ご利用者やご家族と寄り添える方
- 新しい仕事にチャレンジしたい方
- 創造力を活かして仕事をしたい方
- 子ども達の成長に「喜び」や「やりがい」を感じることができる方

1,600名を超えるたくさんの仲間たちが「あなた」をお待ちしております。

採用説明会、採用試験は定期的に実施しております。
また、施設見学も随時受け付けております。

見学はこちら

施設見学のお申込み

採用エントリー

あなたのエントリーをお待ちしております

雑感

今年も暑さの厳しい夏になりそうな予感がします。新型コロナウイルス感染症が流行して、世の中が大きく変化しましたが、少しずつ以前の賑わいが戻ってきていることが感じられます。行楽地が賑わっていたり、様々なイベントが制限なく行われたりと楽しい時間を過ごせるようになってきました。（もちろん新型コロナウイルス感染症が終息したわけではないので、感染対策を行いながらではありますが…）笑顔も多くなり、社会が元気になってきているのが感じられ嬉しくなってきます。学生の文化祭や体育祭も開催され、学生ならではの活気と盛り上がりがあります。その様子に自分の学生時代を思い出し、「大変だ！」「疲れた！！」と言いながらも楽しかったなあと懐かしくなりました。人と人がコミュニケーションをとり繋がることはすべての源になると改めて感じ、これからもっともっと人とのつながりを大切にしていきたいと思います。笑顔で過ごす時間を大切にしていきましょう！！

（同援みどり保育園　大堀　記）

発行者　理事長　飯　山　幸　雄
社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会
東京都新宿区原町 3-8
電話　03（3341）7161　https://www.doen.jp

印刷所　東京都同胞援護会事業局
東京都墨田区両国 4-1-8

令和５年７月２０日　発行